

米原西口円形広場で初公演 米原曳山まつり (10月8~10日)

10月8日から10日の3日間、湯谷神社の祭礼として江戸時代から伝わる「米原曳山まつり」が、秋空のもと開催されました。

今年の出番軸は松翁山組と旭山組の2基で、宵宮にはリニューアルしたJR米原駅西口の円形広場にも初めて曳山が巡行。会場は地域の人やカメラマンでにぎわっていたほか、米原駅を利用する人も思わず足を止め



て見入っていました。

そして、堂々と演じる子ども役者と、それを支える世話方や若連中の心意気に惜しめない拍手が送られていました。

国体優勝を勝ち取った 伊吹高ホッケー部！ (10月24日)

熱戦が繰り返されていた「おいでませ！山口国体」少年男子ホッケー競技において、滋賀県代表として出場した伊吹高校男子ホッケー部が見事優勝を飾られ、10月24日、米原庁舎で優勝報告会が行われました。

市長は「みなさんに勇気と元気を与えてもらえた。国体優勝は米原市にとって大きな誇り」と、選手たちを称えました。



伊吹高校ホッケー部として12年ぶり3回目の国体優勝。サッカーの「なでしこ旋風」のようにスポーツの盛り上がりか地域を元気にしていくことを期待したいですね。

先月、これまでから東日本大震災への支援を続けてきた福島県相馬市へ、市民の皆さんから提供いただいた新米50俵と震災孤児育英基金への義援金約100万円を届けてまいりました。

相馬市は福島第一原発から約50kmの距離にあり、米原市における敦賀原発と同じような距離にあります。がれき処理は進んでいましたが、農地では津波による土壌の塩分や原発事故に伴う放射性物質の除去など、7か月が経過した今でも大きな課題が残っています。

そのような状況の中、今般、原子力安全委員会では、原発から半径8〜10kmとする今までの「防災対策を重点的に充実すべき地域の範囲（EPZ）」に代えて、「直ちに避難する区域」や「緊急時に避難や屋内退避を準備する区域」等を設定する見直し案が示され、本市においても一部が対象となる半径50km圏では、ヨウ素被ばくを避けるための「安定ヨウ素剤服用などの対策を準備する区域」も新たに盛り込まれました。

今後、市としても十分な備えに取り組みとともに、支援を続けながらも同じような条件下にある相馬市の震災や原発事故に対する対策、また復興へ向けた教訓などを情報収集し、市民の皆さんの安全確保のため万全を期してまいります。



米原市長 泉峰一

(11月1日記)

災害への備えと 心構えを学ぶ PTA教育講演会 (10月26日)

10月26日、ルッチプラザでPTA教育講演会が開催されました。

今回の講師は、危機管理アドバイザーとして多岐にわたって防災対策に取り組まれている国崎信江さん。東日本大震災で家を失い大きな心の傷を負った子どもや、備えが十分でなかったことを悔いて泣き崩れる母親の様子を語り、「家がいかに家族の心の支えになっているかを見つめ直してほしい。大切な子どもを守るた



めにも無防備でいず、身近な危険を知って取り除くことが必要」と、参加者に呼びかけていました。

新たなまなびが スタート ルッチ大学第6期生 入学式 (10月26日)

10月26日、ルッチプラザでまちづくり市民大学「ルッチ大学」の入学式が開催され、30人の新たな仲間の初顔合わせの場となりました。

引き続いて行われた記念講演では、ルッチ大学事例研究コーディネーターの上田洋平さんから地元学とこのころについて学び、学生らはさっそく熱心に聴講。講師からは、「ルッチ大学は3世代が同居するめずらしい学校。このめぐりあわせを大切に



しながらお互いに刺激しあい、想像力を豊かにして取り組んでください」と、エールが送られていました。

増水から地域を守る ために河川改修 ～みんなで協力して 水生生物のお引越し～ (10月29日)

10月29日、長岡の天野川で「長岡ゲンジボタルの生息環境保護学習」が行われ、山東小学校の児童と保護者・長岡区民など、約130人が参加しました。

この地域では台風6号で河川が増水して避難勧告が発令されるなど、大雨のたびに氾濫の危険性が指摘されてきたことから、3年にわたって浚渫工事が実施されることに。参加



者らは「鴨と螢の里づくりグループ」のみなさんから水環境について学んだ後、ホタルの幼虫やカワニナなどを工事から守ろうと、協力し合いながら捕獲して上流部に放流しました。